

芸文生がつくる
富山大学 芸術文化学部 の広報誌

TADJ vol.8

Takaoka Campus.Faculty of Art and Design Journal



いまの芸文、これからの芸文。

大学生として過ごすのは
人生の中の数年間。
しかしその日々は将来の自分にとって
かけがえのないものになるでしょう。

芸文で過ごす先輩たちも
悩んで、悩んで、
自分で決めたそれぞれの道。

よし、
次は私たちの番。

それぞれの道を見つけるために、
これからの芸文といっしょに歩いていこう。



いまの芸文、これからの芸文。



造形芸術コース卒業
射水市大島絵本館勤務

くわはら たつや

桑原 竜哉さん

きっかけを作る仕事



射水市大島絵本館ではワークショップコーナーの担当などを行っています。絵本館は「感じる・つくる・伝える」をテーマにっていて、絵本館2階が「つくる」フロアになっています。「つくる」コーナーは2つあり、そのうちの1つが私が担当しているワークショップです。このコーナーでは、絵本づくりをはじめ、色々な工作ができます。絵本館には何度も来てくださるお客様がたくさんいらっしゃるので、毎回、新鮮味を感じて楽しんでいるように新しい工作を開発したりしています。今時の子どもたちはスマホやゲームばかりで家では工作をしないから、こういうところで工作をする体験はとても大事だと思いますよ。

はお腹はふくれなけれど人生においては大切なもので、例えば絵本は0歳から100歳まで年齢関係なく読める本だから、どの世代でも楽しめるようにできているんです。言葉がなくなったりときに通じるのは絵と音楽だけだと考えると、今後はもっと絵が人々の身近なものになればいいなと思っています。

絵の世界への興味



高校で文系を選択して、そのまま大学は経済学部とかに入るのかなと思ってたのですが興味が湧かず、それなら好きな絵を描こうと高校三年の春に急に思い立ちました。それから画塾に通い始めましたが今思うとジブリの背景画を描く男鹿和雄さんという方の絵を高校生の頃に見て感動したのがきっかけだったのではないかと感じます。



▲仕事の様子

表現するという精神



決して造形芸術コースに入ったからといって画家になれるという訳ではないです。大学に入ると画家で食べていくのは難しいと更に実感しました。卒業した後は、社会に出て何かしら仕事をしていかなければ自立できませんが、アートの分野を学んだ人には「表現する」という精神が芸術活動以外の生活で活かされている場面はたくさんあると思います。だからこれからも絵は描いていきたいと考えています。現在は絵から少し離れていましたが、再開したいこうと思っています。しかし、絵を描く

環境を整えるために苦労する場面も多くあり、そうなると思う場所では最高だったなと感じますね。造形芸術コースの絵画の授業は時間の使い方がとても自由です。授業ごとに1点完成すると考えると、だいたい年間2点は完成することになります。それから授業の課題だけではなく、展覧会や公募展に出品する作品を制作するためには、授業外の時間を有効に活用していく必要もあり、大学生活の中でどれだけ時間を作って制作を進められるかが重要ですね。三年生では国展に出品して入選したり、卒業制作では誰よりも早

く絵画室にいつて制作したりと、当時は振り返ると自分でも驚くほど頑張っていましたね。芸文は広く学べる環境なので、足りないと思った部分は時間の許す限りどれだけでも掘り下げることが出来ます。そういった環境で制作に打ち込んだ経験は、自分にとって大きな財産になっています。

0歳から100歳まで
楽しめる芸術。



おしかわ
えりこ

押川 恵里子さん

今の仕事について

プランナーの仕事はとにかく「考える時間」が多く、自分一人で色々な可能性を考えています。でも粘れば粘るほど良いアイデアが出るという訳ではないんですよ。本当に3時間くらいで良い案がパツパツと出ることもあれば、そうでないことも多いです。

仕事をしていく中で案を考えているときはこれで本当に面白いのかと悩んだり、先人たちの作った映像を見ていると自分との差に落ち込んだり、苦しく感じることもあります。自分で考えているときにはこれはウツるみたいなものはあまりなくて、他の人に見せたときの反応で「あ、いけるぞ」って感じますね。稀に面

可愛い禁止



白いと思うものができたときは、打ち合わせで早めに発表したくなつてそわそわすることもあります。やはり自分の考えたものが映像として形になるのは嬉しいです。例えばSNSでつぶやかれているのを見ると「あ、話題にしてくれている」と素直に嬉しかったです。



▲仕事の様子

私の指導教員は沖和宏先生だったの

す。授業中に「可愛いという表現は禁止」というのがあって、当時は「言葉に頼るな」くらいの感覚で捉えていました。しかし企画や演出をしていく中で、自分がいいなと思ったものは、なぜいいかという理由を考えなければそれに近いものを作ることができないことに気づ

學生時代



学生時代の私の周りには、自分のやりたいことを実行する人が多かったので、一緒にいると良い刺激になったと思います。せっかく芸文きたので、他の学部ではやらないよう

き、「可愛い」という表現は禁止」もあながち間違っていないのだと社会に出て納得しました。全てを大きなくりにせず、ものごとを細かく分類していくといざ自分が作る時に抽出しやすいので、なぜそう思ったのか考えることは大事だと思いますね。

なことをしたいと思っていました。芸文生が本領を発揮する場として創己祭(高岡キャンパスの大学祭)などのイベントがあります。私は創己祭のTシャツ展をしたのですが、一人でやるなら自分の好きなことをとんとん表現しようと思って。Tシャツの発祥が戦時中だったので、軍服を着たりしました。そういつたパフォーマンスが許されたのも、学生ならではですね。学生時代は自分の好きなことを最大限にやれる環境でした。いま映像の仕事をしていると、こういう表現はだめだと様々な規制があるのですが、私がいいと思ったことを実行できる」というのが学生時代の楽しかったことですね。

就活で大変だったこと



就職の際に自分で会社を探していて、最初は広告代理店を目指していました。一次面接で上手に話さなくてボロボロだったりと、面接の受け答えなども練習したりしたのですが、これといって実感はありませんでした。各社で試験を受けていく中で、今の会社は、自分の提出した課題で判断してくれました。自分の作るものに自信があれば、課題がメインの就活方法を選ぶ等といった、自分の就活スタイルを見つけ、選んでいくのも一つの方法なのかなと思います。

それから、就職活動に当たってポ

トフオリオはちゃんと作りました。内容を見るとその学生の人となりがよくわかります。せっかく大学時代に自己を表すものを作ることができる環境にいるのだから、ポトフオリオ作りはこたわつた方がいいのではないかと思いますね。

いいものを生み出す
”メソッド”

今の仕事



私の主な業務内容は、建築設計の仕事です。家を建てるのに必要な確認申請を作成する業務であったり、お客様と打ち合わせしたり、その内容を図面におこしたり、3Dソフトでパースの作成をします。設計で必要な家を建てるまでの流れの業務はほぼ全てやっています。一日ずっと同じ業務をするというよりは、敷地の調査から家のコーディネート、CAD設計、家づくりに必要な資料の作成などまで幅広くやっていますね。



▲設計した店舗

地元を変えていきたい



私の家庭は転勤族で、福井や富山県内を転々としており、色々な住まいに住むことが多かったため、建築に興味を持つようになったんです。ま

た、祖父が木工で実家には木がたくさんあって、木の匂いや木に触れることが多く、建築が身近なものになっていました。京都など、各地の都市部は建築物でも素敵なものがたくさんあるように感じるのですが、富山県はパツとするようなものが発見できていなかったため、地元で勉強して地元を変えていきたいという気持ちがありました。

芸文に対して思うこと



大学では先輩の卒業制作を手伝っていたし、自分の卒業制作では後輩に手伝ってもらうことも多かったのですが、先輩後輩の関係はすごく良かったと思います。社会においても、設計がいて、現場の人がいて、お客様がいて、みんなで一つの家を作り上げるので、自分一人では出来ないこ

構使っていて、学生時代の建築以外の経験も、今に繋がっているのかなと思います。

建築士になって



建築士をしていて良かったなと思うのは、色々な人の生活の夢や希望を叶えてあげられることです。衣食住の中で、衣・食はみんな叶えやすいじゃないですか。でも住ってなるとお金もかかるし、やりたいと思ってもなかなかできないので、それと一緒に叶えられるのが建築士の醍醐味かなと思います。夢や希望を叶えるという意味で、私自身も新築した我が家にバーカウンターを作ったり、夜は夫とお酒を飲みながら会話をする、くつろぎの時間が増えて、生活を楽しむという夢を叶えることができました。

※2015年度から「建築デザインコース」にコース名称が変更。

造形建築科学コース※卒業
光陽興産 株式会社勤務

てらやま えりこ

寺山英里子さん

富山で学び、
富山から変えていく。

文化マネジメントコース※卒業
株式会社 宝来社 勤務

加藤 浩貴さん

空間デザインという仕事



宝来社という会社で、主に展示、商業施設の空間デザインを行っています。お客様からのご依頼をもとに、3DCGソフトなどで色や素材等をシミュレーションし、実際に製作するための図面を描いたり、展示グラフィックを製作したりしています。

入学するきっかけ



▲工房の様子

元々芸員の仕事に興味があつて、その方面で大学を探していました。そのときに芸文の文化マネジメントコース※にキュレーターや芸員についてのカリキュラムがあると知り受験を決めました。

他の大学と比べて芸文はカリキュラムの選択の自由度が高いことが特徴だと思っています。例えばグラフィックデザインを専門として扱わないコースの学生も、基礎科目としてグラフィック

「創作のためのツール」を学ぶ



ソフトの基本的な使い方を学ぶことができます。大学に入る前って何となく自分の考えたものがカタチになるような仕事かと思っていても、具体的に何がしたいか目標が決まっている人って少ないと思うんです。そういう意味では、芸文での4年間は将来の目標を見つけるための4年間にもなっていると思います。

今の仕事に就ききっかけ



特に楽しかった授業は3DCGモデリングの授業です。CGの作り方を一通り学んだ後、応用として自分の好きなモチーフを自由につくるという課題を与えられたのですが、課題を完成させた後も、夢中で色々なモチーフのCG制作を楽しんでいました。現在の仕事でも、空間イメージをお客様に提案するために3DCGモデリングソフトを使っています。他にも、在学中に学んだIllustratorやPhotoshopなどのグラフィックソフトは、今でもサイン看板や展示グラフィック等を作るため、よく使っています。

思い返せば4年間の間に、様々なジャンルのツールに触れながら創作する機会が多くあったような気がします。その中で得たスキルやプロセスは、今の仕事にもしっかり活かされ

ています。逆にそれらの経験がなければ今のようにならなかつたと思います。展示が終わってから先生に、「今回のような展示や空間構成系の進路もいいんじゃないか」と提案されて、今のようない仕事に興味を持ちました。就職活動では東京の企業にも面接に行ったのですが、地方にもこういう仕事があるというのを知って、学生時代を過ごした富山でやってみようと思ひ、今に至ります。やろうと思えばものづくりやデザインに関わる仕事は地方にも多くあります。確かに東京などに比べれば圧倒的に少ないですし、私自身、東京の物件を設計するなどの機会はやはり多くなってきたと思います。それでも富山県はグラフィックをはじめとしたデザインを振興する機運が醸成されてきており、官民が連携してデザインに力を入れている、とてもおもしろい地域だと思います。芸文でも企業と連携してデザインが学べるし、そういう風土が出来上がっているんですね。

学生時代に培えるもの



芸文に在籍する人たちの多くは、芸術やものづくりに関わる仕事をやりたいと思っています。仕事選びのときも、その気持ちを大切にしたいと考えています。社会に出てからの仕事の大部分は、その環境下で実践しながら覚え、学んでいくものです。納期、コスト、クライアントの意向など、様々な要素を加味した上でなにかをカタチにするという作業は、やはり一筋縄ではいきませんが、学生のうちに何か目的をもってデザインに取り組んだり、企画を最後まで導くなどの経験を積んだりしていれば、例えばジャンルの違う仕事であったとしても、それは大きな糧となる

やってみたら分かること。

※2015年度から「芸術文化キュレーションコース」にコース名称が変更。

芸文を選んだ理由



高三の夏頃までは他の大学を志望していましたが、本当に行きたいのかと考え始めていたとき、芸文のオープンキャンパスに行きました。そこでよさこいサークルの演舞を見て、学生の力一杯踊っている楽しそうな姿がとても印象的でした。学生が自主的に活動をしている所にも惹かれましたね。あと、芸文のホームページでどのような先生がいるのか、その先生が何を教えてくれるのかを調べたのですが、漆の林暁先生をはじめ、興味を惹かれる先生が多くいらっしやいました。どのような先生に何を教えてもらえるのかが入学前に分かった事も良かったですし、何より、オープンキャンパスで見た学生の楽しそうな姿が芸文に行こうと思ったきっかけですね。

芸文での生活



漆の授業は一年生の後期からで、前期の期間は少し退屈に感じていました。他の大学へ行った友達はどうぞん新しい環境で頑張っていたので、自分も何かをしたいと思っていま

社会に出て感じたこと



教員免許はとりあえず資格だけ取るのかなという気持ちでした。作家になりたい気持ちもありましたし、でも一応免許を取ったから教員になるうかも考えつつ、就活もしていました。そのような中で、教員になるうと決めたのは教育実習での経験が大きいのです。それまでなんとなく資格を取ろうと思っていたのが、実際に生徒と対面することで教員という職業に実感を持つようになりました。また、漆のシンポジウムに参

加したときに、一見漆と離れた職に就きながらも何かしら漆に関わって生活している人たちに出会ったのも刺激になりましたね。もし自分が教員という職業を定年まで続けられ、かなりの数の生徒を社会に送り出すことになるでしょう。その中で一握りでも工芸の道に進んでくれる人がいれば、作家や職人という仕事に限らなくても、漆工芸の分野に貢献できると考えました。

美術の教員になるために自分の専門分野を必死に勉強してきましたが、実際に学校に入ったら、生徒指導をする、全く専門ではない部活動を担当される、保護者への対応がある、書類の仕事もあるというように、とにかくやらなければいけないことが多くて、経験を積まないと全部こなすのは本当に大変です。教育実習生として紹介されていた昔の自分は、生徒からも実習生として接されていたのだと教員になって感じますね。実習生のときはまだ失敗してもいいのですが、今教員として生徒の前に立っている以上、失敗は許されないという緊張感があります。大学で勉強していたことが役に立っていないのではないかって思う人もいますけれども、全くなかにはありません。

談されることも。また、展覧会に連れて行ったところに展示してある作品についてや、芸術作品に関するちょっとした裏話などは、大学で先生に教わったことを思い出しながら生徒に話しているのです。確かに、実際に授業で漆を教えているわけではありません。しかし大学で学んだことは色んな形で今に活かしているなど実感できています。

※2015年度から「芸術文化キュレーションコース」にコース名称が変更。



▲美術の授業の生徒作品

デザイン工芸コース卒業
大学院 芸術文化科学研究科 修了
仁川学院 勤務

いけだ まさみつ

池田 将光 さん

失敗が許されない
緊張感。



TADJスタッフの 井戸端会議



スタッフが芸文で思ったこと、知ったことを話してみました。

に：芸文の特徴はやっぱり、興味があれば誰でもコースをまたいで授業が取れるところかな。

あ：今回取材した加藤さんは、元々学芸員の仕事に興味があって文化マネジメントコースに入ったけど、課外活動で展示を企画したことが今の仕事に繋がっているんですね。

き：私はデザイン情報コースで、将来の仕事もグラフィック系を志望してるんだけど、歴史が好きで美術史の授業もたくさん受けたよ。そうすると、美術館に行って楽しいと思えることが多くなったし、自分のアイデアの引き出しも増えていると思うなー。

に：私はデザイン工芸コースで、プロダクトデザイン、木工、漆も経験した。でもグラフィックデザインの分野にも興味があって、今回のTADJを始め色々な芸文の発行物に関わってる。それらを経験した上で今は企業の企画や広報の仕事をしてみたいとも考えてるよ。

さ：やってみないと分からないこともあるから、授業を通して色々なことに挑戦できるチャンスがあるのは嬉しいな。

み：そのチャンスがたくさんあると、色々挑戦をしながら自分に合ったジャンルとか表現方法が見つけれられて良いですね。

あ：その他にも、地域と連携する授業は地方大学ならではの気がします。

き：実際に地元企業の人から依頼をもらって活動する授業もたくさんあったよね。『広告デザイン演習』とか『製品評価法』とか。

さ：『製品評価法』では靴下をデザインしたんだけど、助野株式会社の社員さんが毎回授業に来てくれて、色々アドバイスしてくれたね。

み：学生同士では分からない目線からの意見ももらえますし、何より地域の人たちが学生の考えたものを見て喜んでくれると、本当に嬉しくなりますよね。

き：このTADJでも社会に出た先輩方の話を聞くことができたし、実際に配布される広報誌を作るっていう経験もできた。こんなふうに一生懸命頑張った分、仲間たちと打ち上げなんかもしちゃったりね。

あ：大学祭やサークル活動も盛んなので、先輩と後輩も仲が良いし、地域のみなさんと関わるイベントもたくさんあって、自分のやりたいことがとことんできる環境だと思います。

に：私たちも芸文にいる間に、今回取材した先輩たちのようにもっと色々挑戦したいな～！



中庭にチョークで自由に絵を描く
芸文ならではの授業

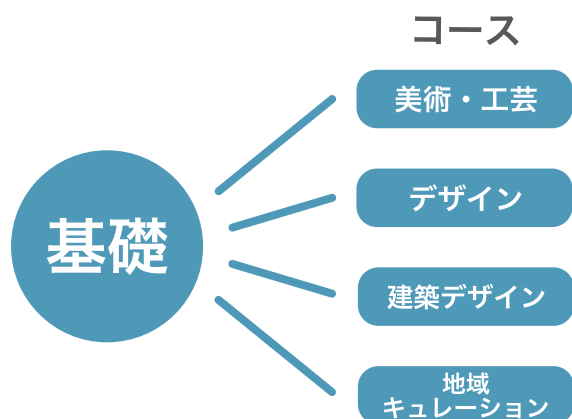


高岡市金屋町をランウェイに、学生
が運営する着物ファッションショー



富山大学よさこいサークルTNCは
面白くて熱い先輩ばかり

芸術文化学部が、 4コースになります。



富山大学芸術文化学部では、コースを横断した授業選択が出来るなど、異なる属性の学生が共に学ぶ「融合教育」を特色としています。

その効果を高めることを目的に、平成30年度から5コースを4コースに再編します。これまでは入試時にコースを決定していましたが、これからは2年次に自分のコースを選ぶことになります。専門的な学習をした後、4年次は各自のテーマに応じて卒業研究を行います。学生一人一人が希望する進路に柔軟に対応できるのも融合教育の特色です。

美術・工芸

洗練された美意識と
卓越した技から創る
新しい芸術表現

—— 専門分野 ——

- ・造形芸術
- ・金属・漆工芸
- ・メディアアート

デザイン

明快なコンセプトで
地域の課題を解決し、
新たな価値を提案

—— 専門分野 ——

- ・プロダクトデザイン
- ・クラフトデザイン
- ・ビジュアルデザイン

建築デザイン

歴史・風土
から織りなす
時と場所の創造

—— 専門分野 ——

- ・建築設計
- ・建築再生
- ・インテリアデザイン

地域 キュレーション

アートや伝統文化を
活かした豊かさを感じる
地域づくり

—— 専門分野 ——

- ・まちづくり
- ・文化財活用
- ・アートマネジメント





Takaoka Campus.Faculty of Art and Design Journal

GEIBUN 富山大学 芸術文化学部
〒933-8588 富山県高岡市二上町180番地
TEL 0766-25-9111

2017.03 この印刷物に使用されている紙は「紙」から「紙」へのリサイクルが可能です。